

# 統計学

第 122 号

---

## 研究論文

米国統治期における琉球政府統計の歴史の変遷

..... 伊良皆千夏 (1)

## 海外統計事情

Session overview “Poverty and Inequality: New Challenges and New Statistical Responses”

The Virtual 63rd ISI World Statistics Congress 2021, The Hague

..... Eliseeva, Irina I. and Dekina, Maria P. (15)

## 追悼

大屋祐雪会員を偲んで

..... 森 博美 (17)

## 本会記事

経済統計学会第65回(2021年度)全国研究大会・会員総会 ..... (20)

支部だより ..... (31)

投稿規程 ..... (33)

---

2022年3月

経済統計学会

## 創刊のことば

社会科学の研究と社会的実践における統計の役割が大きくなるにしたがって、統計にかんする問題は一段と複雑になってきた。ところが統計学の現状は、その解決にかならずしも十分であるとはいえない。われわれは統計理論を社会科学の基礎のうえにおくことによって、この課題にこたえることができると考える。このためには、われわれの研究に社会諸科学の成果をとりいれ、さらに統計の実際と密接に結びつけることが必要であろう。

このような考えから、われわれは、一昨年来経済統計研究会をつくり、共同研究を進めてきた。そしてこれを一層発展させるために本誌を発刊する。

本誌は、会員の研究成果とともに、研究に必要な内外統計関係の資料を収めるが同時に会員の討論と研究の場である。われわれは、統計関係者および広く社会科学研究者の理解と協力をえて、本誌をさらによりよいものとするを望むものである。

1955年4月

## 経済統計研究会

### 経済統計学会会則

第1条 本会は経済統計学会（JSES：Japan Society of Economic Statistics）という。

第2条 本会の目的は次のとおりである。

1. 社会科学に基礎をおいた統計理論の研究
2. 統計の批判的研究
3. すべての国々の統計学界との交流
4. 共同研究体制の確立

第3条 本会は第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会の開催
2. 機関誌『統計学』の発刊
3. 講習会の開催、講師の派遣、パンフレットの発行等、統計知識の普及に関する事業
4. 学会賞の授与
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第4条 本会は第2条に掲げる目的に賛成した以下の会員をもって構成する。

- (1) 正会員
- (2) 院生会員
- (3) 団体会員
- 2 入会に際しては正会員2名の紹介を必要とし、理事会の承認を得なければならない。
- 3 会員は別に定める会費を納入しなければならない。

第5条 本会の会員は機関誌『統計学』等の配布を受け、本会が開催する研究大会等の学術会合に参加することができる。

- 2 前項にかかわらず、別に定める会員資格停止者については、それを適応しない。

第6条 本会に、理事若干名をおく。

- 2 理事から組織される理事会は、本会の運営にかかわる事項を審議・決定する。
- 3 全国会計を担当する全国会計担当理事1名をおく。
- 4 渉外を担当する渉外担当理事1名をおく。

第7条 本会に、本会を代表する会長1名をおく。

- 2 本会に、常任理事若干名をおく。
- 3 本会に、常任理事を代表する常任理事長を1名おく。
- 4 本会に、全国会計監査1名をおく。

第8条 本会に次の委員会をおく。各委員会に関する規程は別に定める。

1. 編集委員会
2. 全国プログラム委員会
3. 学会賞選考委員会
4. ホームページ管理運営委員会
5. 選挙管理委員会

第9条 本会は毎年研究大会および会員総会を開く。

第10条 本会の運営にかかわる重要事項の決定は、会員総会の承認を得なければならない。

第11条 本会の会計年度の起算日は、毎年4月1日とする。

- 2 機関誌の発行等に関する全国会計については、理事会が、全国会計監査の監査を受けて会員総会に報告し、その承認を受ける。

第12条 本会会則の改正、変更および財産の処分は、理事会の審議を経て会員総会の承認を受けなければならない。

- 付 則
1. 本会は、北海道、東北・関東、関西、九州に支部をおく。
  2. 本会に研究部会を設置することができる。
  3. 本会の事務所を東京都文京区音羽1-6-9（株音羽リスマチック）におく。

1953年10月9日（2016年9月12日一部改正[最新]）

## 【本会記事】

### 経済統計学会第65回（2021年度）全国研究大会・会員総会

常任理事会

#### I. 第65回全国研究大会

2021年度の全国研究大会は、2020年度と同様、新型コロナウイルス蔓延の影響を考慮して、対面による実施を中止しWebによる報告で開催された。なお実施要領については以下の通り。

- ・昨年同様、Web報告とする。開催日は当初の予定通りで変更なし。
- ・報告申し込みの期限を2021年8月16日(月)に延長した。また『要旨集』の原稿提出期限を9月20日に延長した。
- ・報告に当たっては、報告前の『要旨集』と報告後の『報告集』の原稿提出を必要とする。またこれらは、PDFファイルでHP公開とする（紙媒体で印刷配布はしない）。
- ・2020年度はWeb報告なしの『報告集』報告も学会報告としたが、今回はそれを認めない。Web報告+『要旨集』+『報告集』を以って学会報告とする。
- ・Web報告は、昨年度同様、会員外非公開とし、報告視聴を希望する会員は事前の申し込みを必要とする。
- ・参加費は徴収しない。

#### II. 研究大会プログラム

『全国研究大会報告要旨集』：2021年1月末公刊予定

Web報告会：2021年10月16日(土)～17日(日)

経済統計学会 北海道支部	
経済統計学会第65回（2021年度）全国研究大会実行委員会	
委員長 北海学園大学経済学部 水野谷武志	
経済統計学会2021年度全国研究大会プログラム委員	
委員長	水野谷武志（北海道支部）
副委員長	鈴木雄大（北海道支部）
委員	山口秋義（九州支部）
	中敷領孝能（九州支部）
	杉橋やよい（東北・関東支部）
	村上雅俊（関西支部）

\*印は報告者

**10月16日(土)**

9:30~11:30 セッションA:企画セッション(ジェンダー統計研究部会企画)

第5次男女共同参画基本計画とジェンダー統計

Zoom会場第1

コーディネータ:杉橋やよい(専修大学)

座長:伊藤 純(昭和女子大学)

1. 杉橋やよい(専修大学)  
世界ジェンダーギャップ指数の再検討
2. 橋本美由紀(高崎経済大学)  
高校までの統計教育とジェンダー教育について
3. 高橋雅夫(長野大学)  
夫婦の家事分担の規定要因の動向
4. 伊藤陽一(東北・関東支部)  
性的指向・性的自認(SOGI)の政府統計調査での取り上げ

9:30~11:30 セッションB:一般報告

Zoom会場第2

座長:鈴木雄大(北海学園大学)

1. 高部 勲(立正大学)  
公的統計マイクロデータの利活用推進に資する疑似データ活用の可能性
2. 櫻井智章(総務省)  
民間データを活用した総消費動向指数の結果の改善について
3. 横溝秀始\*(総務省)・伊藤伸介(中央大学)  
事業所・企業系のマイクロデータにおける匿名化措置の有効性の評価
4. 高橋将宜(長崎大学)  
外れ値を含む経済データにおける欠測値の代入処理

12:30~13:00 2021年度学会賞選考報告(学会本部企画)

Zoom会場第1

13:00~14:30 セッションC:特別講演(学会本部企画)

Zoom会場第1

コーディネータ:全国プログラム委員会

座長:水野谷武志(北海学園大学)

小山雅之(札幌医科大学) 他

札幌市の新型コロナウイルス感染症対策とGISの活用

15:00~16:30 セッションD:企画セッション

Zoom会場第1

地域の諸課題と調査・統計分析(1)

コーディネータ・座長:菊地 進(東北・関東支部)

1. 丸山洋平(札幌市立大学)  
地域指標の客観的解釈に関する一考察—地域別ランキングの批判的検討を通して
2. 坂本憲昭(法政大学)

自動車所有台数からみたSS過疎地に関する考察

3. 芦谷恒憲 (兵庫県立大学)

兵庫県における地域データを用いた政策課題分析の事例と課題

15:00~16:30 セッションE:企画セッション

Zoom会場第2

2025年成立の国民経済計算・国際収支統計周辺の課題

コーディネーター: 櫻本 健 (立教大学)

座長: 小川雅弘 (大阪経済大学)

1. 萩野 覚 (内閣府)

国際サービス供給のモード別分類について

—海外子会社の活動や付加価値貿易指標を含む包括的なサービスの把握

2. 櫻本 健 (立教大学)

2025年成立のSNAにおけるデジタルイゼーションの計測

3. 李 潔 (埼玉大学)

SNAとMPSにおける固定資本の取扱に関する一考察

**10月17日(日)**

9:30~11:30 セッションF:企画セッション

Zoom会場第1

日本の統計史を考える

コーディネーター・小林良行 (総務省)

座長: 山口幸三 (総務省)

1. 上藤一郎 (静岡大学)

A. Queteletの人体測定学と数理統計学

2. 廣嶋清志 (東北・関東支部)

万国統計公会の人口調査像

3. 佐藤正広 (東京外国語大学)

紀元2000年と国勢調査—昭和14年臨時国勢調査について

4. 伊良皆千夏 (一橋大学)

米国統治下の沖縄における統計調査

9:30~11:30 セッションG:一般報告

Zoom会場第2

座長: 山口秋義 (九州国際大学)

1. LI Yapeng (立命館大学)

浙江省と山東省における都市・農村間所得格差の分析

—空間パネルデータモデルの適用から

2. 泉弘 志\* (関西支部)・戴 艶娟 (広東外語外貿大学)・李 潔 (埼玉大学)

国際産業連関表による剰余価値率の国際比較—国際価値の理論を踏まえて

3. 栗原由紀子\* (立命館大学)・坂田幸繁 (中央大学)

首都圏近郊における職住分布の計測—パーソントリップ調査を利用して

4. 木下英雄 (大阪経済大学)

産業別にみる場合の雇用創出要因

12:30～14:30 セッションH：一般報告

Zoom会場第1

座長：中敷領孝能（熊本学園大学）

1. 張 南（広島修道大学）  
国際資金循環と金融ネットワーク分析
2. 浦沢聡士（神奈川大学）  
GDPナウキャスト：成果と課題
3. 濱本賢二\*（松山大学）・井草 剛（松山大学）  
愛媛県における観光消費の経済効果と課題
4. 長澤克重\*（立命館大学）・池田 伸（立命館大学）  
電子商取引（ec）統計とアマゾンのパラドクス

12:30～14:30 セッションI：企画セッション（労働統計研究部会企画）

労働・生活・福祉問題と統計

Zoom会場第2

コーディネータ・座長：村上雅俊（阪南大学）

1. 伊藤陽一（東北・関東支部）  
COVID-19の影響下のSDG目標8.1指標の再検討
2. 村上雅俊（阪南大学）  
働き方の組み合わせで見るワーキングプア—世帯類型に着目して
3. 福島利夫（東北・関東支部）  
日本型生活様式の変化と最低賃金制
4. 劉 洋（経済産業研究所）  
企業年齢，企業規模と雇用—日本のデータに基づく分析

15:00～16:30 セッションJ：企画セッション

Zoom会場第1

地域の諸課題と調査・統計分析(2)

コーディネータ・座長：菊地 進（東北・関東支部）

1. 西内亜紀\*（統計情報研究開発センター）・新井郁子（統計情報研究開発センター）・  
草薙信照（大阪経済大学）  
関西国際空港と中部国際空港の立地がもたらした人口構造の変化  
—地域メッシュ統計による年齢3区分人口の分析
2. 小西 純（総務省統計委員会）  
知識産業集積地域における産業中分類別従業者数による主成分分析
3. 大井達雄（立正大学）  
タイル指数による観光地の人流データの変更要因分析

### Ⅲ. 会員総会

2021年7月28日付の葉書で全会員に周知したように、2021年度の会員総会の議事は、昨年度同様、最優先事項に限定し郵送方式で実施された。2021年10月10日（日）10:00より開催された

理事会（Web会議）理事会での審議結果を経て、郵送方式による会員総会が2021年11月22日（月）を締め切りとして実施され、11月24日（水）に常任理事長と森博美常任理事の立ち合いのもと開票結果を確認した。

返送されてきた葉書の本数は当日消印有効のものを合わせて95枚となり、すべての事案について反対意見はなく、よって2021年10月18日付で全会員に配布した議案書の承認事項はすべて了承された。

## 1. 入退会及び異動（敬称略）

北海道支部：会員数9名（会員の異動無し）

東北・関東支部：会員数125名（正会員108名・シニア会員1名・院生会員6名・その他会員10名）

新入会員（7名）	大竹美登利 ※2020年度	無所属 ※75歳未満会員	推薦者：水野谷武志・村上雅俊
	小西宏美	駒澤大学	推薦者：櫻本健・則竹悟宇
	高田悠矢	株式会社リクルート	推薦者：櫻本健・則竹悟宇
	伊良皆千夏	一橋大学大学院 ※院生会員	推薦者：佐藤正広・上藤一郎
	須原菜摘	横浜国立大学大学院 ※院生会員	推薦者：居城琢・渡邊淳司
	浦沢聡士	神奈川大学	推薦者：飯塚信夫・坂田大輔
	岩永真由	EY新日本有限責任監査法人	推薦者：荻原覚・櫻本健
転入会員（1名）	武田英俊	京都大学→日本大学	関西支部→東北・関東支部
所属変更（5名）	倉田知秋	総務省政策統括官付→環太平洋大学	
	児玉直美	日本大学→明治学院大学	
	白川清美	統計センター→立正大学	
	高部 勲	総務省統計局→立正大学	
	高橋雅夫	総務省統計局→長野大学	
自主退会（3名）	満島 章	※2020年度	
	水野勝之	※2020年度	
	北山直樹		
死亡退会（1名）	岡部純一		
除 籍（1名）	鹿内 寛		

関西支部：会員数86名（正会員72名・シニア会員10名・院生会員3名・その他会員1名）

新入会員（3名）	笹原妃佐子	広島大学大学院	推薦者：松川太一郎・西村善博
	濱本賢二	松山大学	推薦者：井草剛・安田俊一
	Li Yapeng	立命館大学大学院 ※院生会員	推薦者：栗原由紀子・坂田幸繁
転出会員（1名）	武田英俊	京都大学→日本大学	関西支部→東北・関東支部

所属変更(3名)	金子治平	神戸大学→大阪経済法科大学	
	大井達雄	和歌山大学→立正大学	
	谷道正太郎	総務省統計局統計データ利活用センター→総務省政策統括官付統計企画管理官室	

九州支部：会員数11名(死亡退会1名：大屋祐雪)

## 2. 理事会及び会員総会における決定事項

### (1) 新会長の承認

新会長候補者として坂田幸繁会員(東北・関東支部・中央大学)を会員総会に推薦することが理事会で決定し、会員総会で承認された。

### (2) 新常任理事長の承認

新常任理事長として池田伸会員(関西支部・立命館大学)が理事会で選出され、総会で報告された。

### (3) 2022年度研究大会の開催について

2022年度の全国研究大会は九州支部が担当することになっており、会場校は九州国際大学、開催日は2022年9月6日(火)～7日(水)であることが山口秋義会員より理事会で報告された。

### (4) 学会賞について

次の会員が受賞した。

経済統計学会賞

張南会員(関西支部・広島修道大学)

研究奨励賞

田添篤史会員(関西支部・三重短期大学)

### (5) 2019年度支部活動交付金収支報告

栗原会計担当常任理事より2019年度支部活動交付金収支について、適正に処理されていることが報告され、理事会で承認された。

### (6) 理事選挙管理委員・選挙管理委員補佐について

次期理事選出に関する理事選挙管理委員会は関西支部が担当することとなり、選挙管理委員に御園謙吉会員(阪南大学)と村上雅俊会員(阪南大学)、選挙管理委員補佐に小野寺剛会員(環太平洋大学)が理事会で承認された。

### (7) 2023年度全国研究大会の開催支部について

東北・関東支部が担当することを理事会で確認し、総会で承認された。

### (8) 学会賞・学会賞選考委員会規程の改訂

現行の規定を、「3. 学会賞・学会賞選考委員会規定改訂」のように改定することが総会で承認された。

### (9) 2020年度全国会計報告・会計監査報告

2020年度全国会計報告・会計監査報告が総会で承認された(「4. 会計関係」(1)参照)。

### (10) 2021年度会計中間報告

2021年度全国会計の中間報告が総会で承認された(「4. 会計関係」(2)参照)。



(11) 2022年度会計予算案報告

2022年度全国会計予算案が総会で承認された（「4. 会計関係」(3)参照）。

(12) 各委員会の構成について

全国プログラム委員会，編集委員会，学会賞選考委員会の各委員会の委員長・副委員長・委員については，新常任理事会が2021年度内に理事会に提案し承認を求めることが総会で了承され，過日，理事会で承認された。

3. 学会賞・学会賞選考委員会規定改訂

現行規程	改正案 アンダーライン部を修正
<p>(目的)</p> <p>1. 会則第3条第4項および第8条第3項にもとづき，学会賞および学会賞選考委員会に関する規程を定める。</p> <p>(学会賞)</p> <p>2. 社会科学としての統計学の普及，発展に貢献した本会会員に次の賞を授与する。</p> <p>(1) 経済統計学会賞</p> <p>(2) 研究奨励賞</p> <p>(3) 会長賞</p> <p>(表彰対象業績)</p> <p>3. 経済統計学会賞は，社会科学としての統計学の理論と応用にたいし特に大きく寄与した著書・論文を著したものに授与する。</p> <p>(2) 研究奨励賞は，受賞年度において満40歳以下のもので，社会科学としての統計学の分野において特に優れた著書・論文を著したものに授与する。</p> <p>(3) 会長賞は，社会科学としての統計学の理論と実践に特に貢献したものに授与する。</p> <p>(学会賞選考委員会)</p> <p>4. 選考委員会は次の者から構成される。</p> <p>会長，常任理事長，および会長が推薦し，理事会が承認した者2名以上。</p> <p>(2) 選考委員の任期は1年とする。但し，再任を妨げない。</p> <p>(3) 選考委員会委員長は会長が指名し，理事会に報告する。</p> <p>(学会賞の推薦)</p> <p>5. 学会賞の推薦者は会員資格を有する者とする。但し，選考委員会委員は推薦者となることはできない。</p> <p>(選考)</p> <p>6. 授賞対象者の選考は，学会賞選考委員会が行なう。</p> <p>(2) 選考委員会は，経済統計学会賞対象者，研究奨励賞対象者，会長賞対象者，を選考し，理事会に報告する。</p>	<p>(目的)</p> <p>1. 会則第3条第4項および第8条第3項にもとづき，学会賞および学会賞選考委員会に関する規程を定める。</p> <p>(学会賞)</p> <p>2. 社会科学としての統計学の普及，発展に貢献した本会会員に次の賞を授与する。</p> <p>(1) 経済統計学会賞</p> <p>(2) 研究奨励賞</p> <p>(3)は削除</p> <p>(表彰対象業績)</p> <p>3. 経済統計学会賞は，社会科学としての統計学の理論と応用にたいし特に大きく寄与した著書・論文(共同研究を含む)を著した会員に授与する。</p> <p>(2) 研究奨励賞は，受賞年度において満40歳以下のもので，社会科学としての統計学の分野において特に優れた著書・論文を著したものに授与する。</p> <p>(3)は削除</p> <p>(学会賞選考委員会)</p> <p>4. 選考委員会は次の者から構成される。</p> <p>会長，常任理事長，および会長が推薦し，理事会が承認した者2名以上。</p> <p>(2) 選考委員の任期は1年とする。但し，再任を妨げない。</p> <p>(3) 選考委員会委員長は会長が指名し，理事会に報告する。</p> <p>(学会賞の推薦)</p> <p>5. 学会賞の推薦者は会員資格を有する者とする。但し，選考委員会委員は推薦者となることはできない。</p> <p>(選考)</p> <p>6. 授賞対象者の選考は，学会賞選考委員会が行なう。</p> <p>(2) 選考委員会は，経済統計学会賞対象者，研究奨励賞対象者，会長賞対象者，を選考し，その結果を理事会に報告する。</p>

<p>(受賞者の発表)</p> <p>7. 受賞者については、該当する業績の概要とともに学会ウェブサイト等で速やかに公表し、表彰は会員総会において会長が行なう。</p> <p>(その他)</p> <p>8. 賞の運営に関する細則は、別に定める。</p> <p>2008年9月6日制定</p>	<p>(受賞者の発表)</p> <p>7. 受賞者ならびに業績の概要については、<u>理事会が学会ウェブサイト等で公表する。</u>表彰は会員総会において会長が行なう。</p> <p>(その他)</p> <p>8. 賞の運営に関する<u>細目は、選考委員会にて定める。</u></p> <p>2008年9月6日制定 2021年11月23日改正</p>
---	---

## 4. 会計関係

(1) 2020年度全国会計報告・会計監査報告(2020年4月1日～2021年3月31日)

収 入	予算	決算	差額	支 出	予算	決算	差額
前期繰越	6,107,696	6,475,716	368,020	1. 誌代	1,200,000	623,022	-576,978
1. 会費収入	1,930,000	1,834,000	-96,000	(1)『統計学』118号(通常分)	600,000	217,994	-382,006
(1)誌代・編集費	1,156,400	1,096,800	-59,600	(2)『統計学』119号(通常分)	600,000	405,028	-194,972
・北海道支部	46,000	40,800	-5,200	2. 本部事業費	1,034,000	765,901	-268,099
・東北・関東支部	624,400	588,800	-35,600	(1)事務委託費	20,000	20,000	0
・関西支部	429,600	410,800	-18,800	(2)ニューズレター発行費 (第57号,臨時増刊号,第58号分)	150,000	127,585	-22,415
・九州支部	56,400	56,400	0	(3)研究大会関連経費	300,000	285,063	-14,937
(2)本部経費	663,600	627,200	-36,400	・大会準備金	200,000	0	
・北海道支部	28,000	25,200	-2,800	・プログラム印刷・送達費	100,000	285,063	
・東北・関東支部	355,600	333,200	-22,400	(4)通信・交通費	200,000	17,004	-182,996
・関西支部	246,400	235,200	-11,200	・通信費		1,604	
・九州支部	33,600	33,600	0	・学会封筒代		15,400	
(3)団体会員会費	110,000	110,000	0	(5)名簿作成費	70,000	102,631	32,631
2. 繰入金	200,000	0	-200,000	(6)HP関係経費	94,000	96,362	2,362
・大会準備金の償還	200,000	0	-200,000	・レンタルサーバー・ドメイン代	10,000	12,362	
3. 雑収入	500	47	-453	・HP維持管理費	84,000	84,000	
・受取利子	500	47	-453	(7)その他の事業費	200,000	117,256	-82,744
				・学会法人化に向けた調査等経費	100,000	0	
				・その他	100,000	117,256	
				うちコロナ対応関連費 <sup>1)</sup>		114,646	
				3. 支部活動交付金	308,100	291,200	-16,900
				・北海道支部	13,000	11,700	-1,300
				・東北・関東支部	165,100	154,700	-10,400
				・関西支部	114,400	109,200	-5,200
				・九州支部	15,600	15,600	0
				4. 60周年記念事業	0	213,055	213,055
				・『統計学』118号(60周年記念特集) <sup>2)</sup>	0	213,055	213,055
				5. 予備費	200,000	157,400	-42,600
				・2021年度研究大会会場利用料(利用予約)		157,400	
				次期繰越	5,496,096	6,259,185	763,089
収入合計	8,238,196	8,309,763	71,567	支出合計	8,238,196	8,309,763	71,567

注1) コロナ対応に関連するZoomライセンス利用料および通信費などに関する経費。

注2) 60周年記念特集が掲載された『統計学』118号の出版および支出は会計年度を超えて行われた。また、『統計学』118号のうち60周年記念特集に係る支出分は、印刷経費を特集ページ数分で案分し計上した。

上記、相違ありません。

2021年9月6日 経済統計学会 全国会計 栗原由紀子 印

2020年度経済統計学会全国会計の会計監査にあたり、収入支出に伴う関係書類及び関係証票、預金通帳等を慎重に審査した結果、いずれも正確かつ適正であることを認めます。

2021年9月6日 経済統計学会 会計監査 小野寺剛 印

## (2) 2021年度全国会計中間報告(2021年4月1日～2021年8月31日)

収 入	予算	決算	差額	支 出	予算	決算	差額
前期繰越	6,676,766	6,259,185	-417,581	1. 誌代	1,200,000	199,856	-1,000,144
1. 会費収入	1,834,000	1,838,000	4,000	(1)『統計学』120号(通常分)	600,000	199,856	-400,144
(1)誌代・編集費	1,096,800	1,098,000	1,200	(2)『統計学』121号(通常分)	600,000	0	-600,000
・北海道支部	40,800	40,800	0	2. 本部事業費	1,034,000	132,873	-901,127
・東北・関東支部	588,800	592,000	3,200	(1)事務委託費	20,000	0	-20,000
・関西支部	410,800	408,800	-2,000	(2)ニューズレター発行費 (第59号, 臨時増刊号)	150,000	73,103	-76,897
・九州支部	56,400	56,400	0	(3)研究大会関連経費	300,000	0	-300,000
(2)本部経費	627,200	630,000	2,800	・大会準備金	200,000	0	
・北海道支部	25,200	25,200	0	・プログラム印刷・発送費	100,000	0	
・東北・関東支部	333,200	336,000	2,800	(4)通信・交通費	200,000	1,510	-198,490
・関西支部	235,200	235,200	0	・通信費	0	1,510	
・九州支部	33,600	33,600	0	・旅費補助	0	0	
(3)団体会員会費	110,000	110,000	0	(5)名簿作成費	70,000	0	-70,000
2. 繰入金	200,000	0	-200,000	(6)HP関係経費	94,000	42,000	-52,000
・大会準備金の償還	200,000	0	-200,000	・レンタルサーバー・ドメイン代	10,000	0	
3. 雑収入	500	21	-479	・HP維持管理費	84,000	42,000	
・受取利子	500	21	-479	(7)その他の事業費	200,000	16,260	-183,740
				・学会法人化に向けた調査等経費	100,000	0	
				・その他	100,000	16,260	
				うちコロナ対応関連費 <sup>1)</sup>		15,120	
				3. 支部活動交付金	291,200	292,500	1,300
				・北海道支部	11,700	11,700	0
				・東北・関東支部	154,700	156,000	1,300
				・関西支部	109,200	109,200	0
				・九州支部	15,600	15,600	0
				4. 記念事業関連経費	350,000	235,919	-114,081
				・記念事業費 <sup>2)</sup>	300,000	235,919	-64,081
				・記念事業WG活動費	50,000	0	
				5. 予備費	500,000	115,050	-384,950
				・『統計学』120号(60周年記念特集) <sup>3)</sup>		115,050	
				次期繰越	5,336,066	7,121,008	1,784,942
				うち記念事業積立金	1,500,000		
収入合計	8,711,266	8,097,206	-614,060	支出合計	8,711,266	8,097,206	-614,060

注1) コロナ対応に関連する通信費などに関する経費。

注2) 記念事業に関連する学会誌のPDF化の経費。

注3) 60周年記念特集が掲載された『統計学』120号の出版および支出は会計年度を超えて行われた。また、『統計学』120号のうち60周年記念特集に係る支出分は、印刷経費を特集ページ数分で案分し計上した。

2021年8月31日時点の資産	総合口座	3,991,253
	振替口座	3,129,230
	現金	525
	合計	7,121,008

## (3) 2022年度全国会計予算(2022年4月1日～2023年3月31日)

収 入	2021予算	2022予算	差額	支 出	2021予算	2022予算	差額
前期繰越 <sup>1)</sup>	6,676,766	6,359,008	-317,758	1. 誌代	1,200,000	1,200,000	0
1. 会費収入	1,834,000	1,838,000	4,000	(1)『統計学』120号(通常分)	600,000		
(1)誌代・編集費	1,098,800	1,098,000	1,200	(2)『統計学』121号(通常分)	600,000		
・北海道支部	40,800	40,800	0	(3)『統計学』122号(通常分)		600,000	
・東北・関東支部	588,800	592,000	3,200	(4)『統計学』123号(通常分)		600,000	
・関西支部	410,800	408,800	-2,000	2. 本部事業費	1,034,000	1,034,000	0
・九州支部	56,400	56,400	0	(1)事務委託費	20,000	20,000	0
(2)本部経費	627,200	630,000	2,800	(2)ニューズレター発行費	150,000	150,000	0
・北海道支部	25,200	25,200	0	(3)研究大会関連経費	300,000	300,000	0
・東北・関東支部	333,200	336,000	2,800	・大会準備金	200,000	200,000	
・関西支部	235,200	235,200	0	・プログラム印刷・発送費	100,000	100,000	
・九州支部	33,600	33,600	0	(4)通信・交通費	200,000	200,000	0
(3)団体会員会費	110,000	110,000	0	(5)名簿作成費	70,000	70,000	0
2. 繰入金	200,000	200,000	0	(6)HP関係経費	94,000	94,000	0
・大会準備金の償還	200,000	200,000	0	・レンタルサーバー・ドメイン代	10,000	10,000	
3. 雑収入	500	500	0	・ホームページ維持管理費	84,000	84,000	
・受取利子	500	500	0	(7)その他の事業費	200,000	200,000	0
				・学会法人化に向けた調査等経費	100,000	100,000	
				・その他	100,000	100,000	
				3. 支部活動交付金	291,200	292,500	1,300
				・北海道支部	11,700	11,700	0
				・東北・関東支部	154,700	156,000	1,300
				・関西支部	109,200	109,200	0
				・九州支部	15,600	15,600	0
				4. 記念事業関連経費 <sup>2)</sup>	350,000	350,000	0
				・記念事業費	300,000	300,000	
				・記念事業WG活動費	50,000	50,000	
				5. 予備費 <sup>3)</sup>	500,000	500,000	0
				次期繰越	5,336,066	5,021,008	-315,058
				うち記念事業積立金	1,500,000	1,500,000	
収入合計	8,711,266	8,397,508	-313,758	支出合計	8,711,266	8,397,508	-313,758

注1) 2021年度予算の『統計学』121号発行経費600,000円, NL61号, 62号発行経費100,000円, 事務委託費20,000円, HP維持管理費42,000円を引いた6,359,008円を計上した。

注2) 次期記念事業の準備に向けた関連経費を計上した。

注3) 新型コロナウイルス関連対策経費を追加計上した。

## 支部だより (2021年4月～2022年3月)

### 北海道支部

下記の通り、支部研究会が開催されました。

日時：2021年8月31日(火) 14:00～17:00

場所：Zoom ミーティング

報告：

1. 鈴木雄大（北海学園大学経済学部）  
生活扶助相当CPIを用いた生活扶助基準額引下げをめぐる現状とその学術的検討
2. 古谷次郎（北星学園大学経済学部）  
アメリカの初等中等教育における統計教育に関するガイドライン

日時：2021年10月2日(土) 14:00～17:00

場所：Zoom ミーティング

報告

1. 丸山洋平（札幌市立大学）  
地域指標の客観的解釈に関する一考察 — 地域別ランキングの批判的検討を通して
2. 大澤理沙（釧路公立大学）  
食習慣と健康に関する考察

(水野谷武志 記)

### 東北・関東支部

下記の通り支部例会（リモート形式）が開催された。

日時：2022年1月8日(土) 13:30～17:00

場所：リモート形式

報告：

1. 倉田知秋会員（環太平洋大学）  
産業連関表推計における供給表・使用表についての考察
2. 水野谷武志会員（北海学園大学）  
生活時間統計における国際的なガイドラインの検討  
— 国連統計部と欧州連合統計局の動向を中心に

(上藤一郎 記)

## 関西支部

関西支部例会は下記の通りリモート形式で開催されました。

日時：2021年4月17日(土) 14:00～16:10

場所：Zoom ミーティング

報告：

1. 橋本貴彦（立命館大学）  
労働者階級における金融サービス負担と搾取
2. 小川雅弘（大阪経済大学）  
国民経済計算から見たマルクス再生産表式

日時：2021年7月24日(土) 14:00～17:15

場所：Zoom ミーティング

報告：

1. 大井達雄（立正大学）  
観光地の人流データを使用した需要変動分析
2. 池田 伸・長澤克重（立命館大学）  
アマゾンのパラドクス：ec, プラットフォームと「フライホイール」

(村上雅俊 記)

## 九州支部

九州支部例会は下記の通り、九州経済学会の分科会としてリモート形式で開催されました。

日時：2021年12月4日(土) 14:00～14:40

場所：リモート形式

報告：

1. 中敷領孝能（熊本学園大学）  
普通の私大経済学部の基礎的統計学とデータサイエンス

(松川太一郎 記)

## 執筆者紹介

伊良皆千夏 (一橋大学大学院)  
Irina I. Eliseeva (St. Petersburg State University of Economics)  
Maria P. Dekina (St. Petersburg State University of Economics)  
森 博美 (東北・関東支部)

## 支部名

## 事務局

北海道	062-8605	札幌市豊平区旭町 4-1-40 北海学園大学経済学部 (011-841-1161) mizunoya@econ.hokkai-s-u.ac.jp	水野谷武志
東北・関東	192-0393	八王子市東中野 742-1 中央大学経済学部 (042-674-3421) ysakata@tamacc.chuo-u.ac.jp	坂田幸繁(代行)
関西	580-8502	松原市天美東 5-4-33 阪南大学経済学部 (072-332-1224) m-murakami@hannan-u.ac.jp	村上雅俊
九州	890-0065	鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学法学部 (099-285-7601) matsukawa@leh.kagoshima-u.ac.jp	松川太一郎

## 『統計学』編集委員

委員長 村上雅俊 (関西, 阪南大学)  
副委員長 佐藤智秋 (東北・関東, 愛媛大学)  
委員 水野谷武志 (北海道, 北海学園大学),  
山口幸三 (東北・関東, 総務省統計研究研修所), 西村善博 (九州)

統計学 No.122

定価 1,760円(本体1,600円)

2022年3月31日 発行	発行所	経済統計学会 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 音羽リスマチック株式会社 TEL/FAX 03(3945)3227 E-mail: office@jsest.jp http://www.jsest.jp/
	発行人	代表者 金子治平
	発売所	音羽リスマチック株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-6-9 TEL/FAX 03(3945)3227 E-mail: otorisu@jupiter.ocn.ne.jp 代表者 遠藤 誠



# Statistics

---

No. 122

2022 March

---

## Articles

Historical change in the statistical system of the Government of the Ryukyu Islands under the United States'rule

..... Chinatsu IRAMINA (1)

## Foreign Statistical Affairs

Session overview "Poverty and Inequality: New Challenges and New Statistical Responses"  
The Virtual 63rd ISI World Statistics Congress 2021, The Hague

..... Irina I. ELISEEVA and Maria P. DEKINA (15)

## Obituary

In Memory of Dr. Yusetsu OYA

..... Hiromi MORI (17)

## JSES Activities

The 65<sup>th</sup> Session of the JSES ..... (20)

Activities in the Branches of the Society ..... (31)

Prospects for the Contribution to *Statistics* ..... (35)

---

Japan Society of Economic Statistics

---